

2016年(平成28年)8月1日(月曜日)

CEの影響で議論

レアメタル資源再生技術研究会

総会・講演会を開催

レアメタル、レアアース(希土類)などの希少金属資源に関わる産学官の関係者でつくるレアメタル資源再生技術研究会(岐阜県各務原市、藤田豊久会長)は7月19日、総会・講演会・交流会を開催した。講演会では、EUのCircular Economyと我が国のリサイクル戦略」をテーマに、四つの講演を実施。昨今話題となっているCEの動向などについて耳を傾けた。

最初の講演では、国立研究開発法人物質・材料研究機構の原田幸明氏が「EUのCircular Economyは我が国のリサイクル業界等はどう影響するか」について語った。同氏は、CEが金融に代わって「持続可能性」に価値を与えることによる新たな経済モデル創造のチャレンジで、根本的には経済政策だと指摘。そうしたなかで、単に有価物を回収するだけのリ

済に関する動向と今後の政策展開」をテーマに講演。経産省の立場から、▽日本のリサイクル産業の現状▽国際的な動向▽アジアの取り込み▽国内の環境整備――の4点について説明した。CEがグローバルで重要なテーマと位置付けられるなか、日本のリサイクル産業の影響や政策の方向性などについて紹介した。

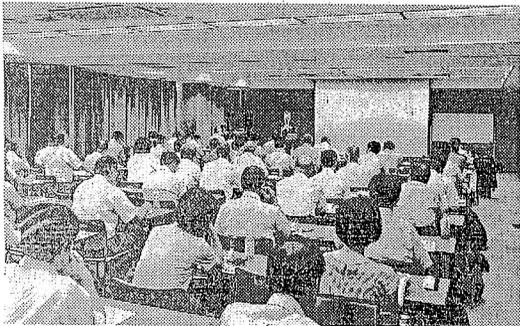
3番目に登壇したのは、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)の神谷太郎氏。JOGMECのレアメタルリサイクル技術開発」として、近年のリサイクル関連技術開発事例から、▽使用済み小型家電製品からのタンタル回収▽使用済み小型家電製品からのコバルト回収――

2事業の成果を報告した。最後に、九州メタル産業の権藤正信氏が登壇。「シュレツダー破碎物の高度選別」とのテーマで、処理フローや使用機器の特徴を交えつつ、同社シュレツダー事業の概要を説明した。閉会後には交流会も行われ、CEなどについて活発に議論が交わされた。

研究会会長で東京大学大学院工学系研究科教授の藤田豊久氏が登壇。「本日のテーマであるCEは、EUを中心とした資源効率・循環経済の試みだが、国際

サイクルは時代遅れになり、サプライチェーンの中に組み込まれた使用目的指向の再資源化、いわば「使ったりサイクル」へのシフトが大切だとして。

第2講では、経済産業省の梅田英幸氏が「資源効率・循環経



講演会のようす

源効率・循環経